

### 第3回「建設産業の市民化」等に関する意見交換・講演会（稚内地区）

日 時 平成16年12月15日（水） 14：00～17：30

場 所 稚内建設協会（稚内市末広4丁目）

主 催 北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会、宗谷建設青年会

出席者 建マネ研究委員会（新山顧問、伊藤委員長、白尾副委員長、高野幹事長、安味事務局長）  
宗谷建設青年会、わからない産業クラスター、未来のくらしと宗谷路を考える会

#### 次 第

14：00 開会挨拶 宗谷建設青年会 会長 石塚 英資

14：10 「建設産業をめぐる最近の話題」  
建設マネジメント研究委員会 顧問 新山 惇  
(北海道建設業信用保証(株)取締役社長)

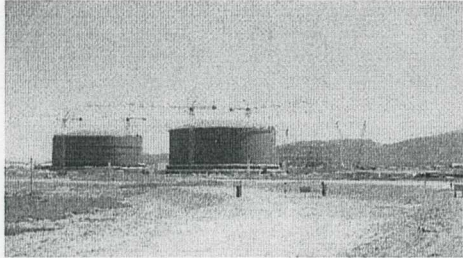
14：40 建設産業の市民化「札幌宣言」の推進について  
建設マネジメント研究委員会 委員長 伊藤 昌勝  
(株)ドーコン常務取締役)

15：10 市民化に向けた地元の取組み、事例等の発表  
・サハリン関係 宗谷建設青年会  
・新エネルギー関係 宗谷建設青年会  
・高速交通ネットワーク関係 未来のくらしと宗谷路を考える会

16：00 質疑応答、意見交換

17：30 閉会

## サハリンへの取組み



稚内建設協会

## これまでの経緯

- ・89年より、建設協会のサハリン訪問が始まる
- ・94年、稚内商工会議所のロシア人研修生受入事業 開始
- ・99年7月稚内建協サハリン視察 石塚会長他19名
- ・2000年、合併企業相手調査
- ・01年9月、合併企業「ワッコル」設立！

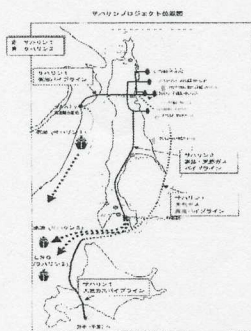
## 合併企業「ワッコル」

- 2001年9月サハリン州コルサコフ市に設立
- 資本金;当初20万ルーブル(日本円;約80万円)
  - ◆稚内建設会館; 8万ルーブル(40%)
  - ◆SU408; 8万ルーブル(40%)
  - ◆コルサ市財産管理委員会; 4万ルーブル(20%)
- 社長;ステツェンコ・セルゲイ(44歳)  
[稚内商工会議所 研修経験者]
- ※ 現在の資本金;170万ルーブル(約680万円)

## 稚内建設機械 株式会社

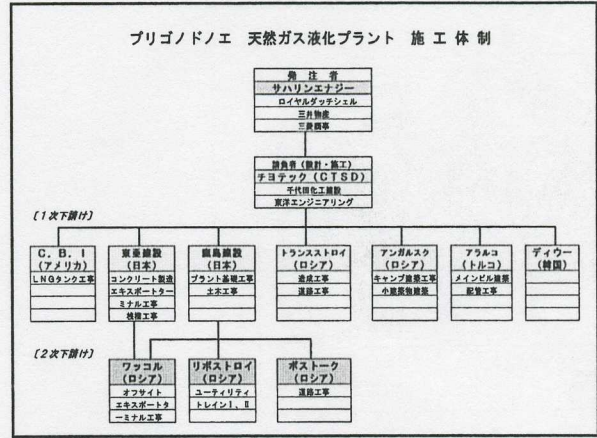
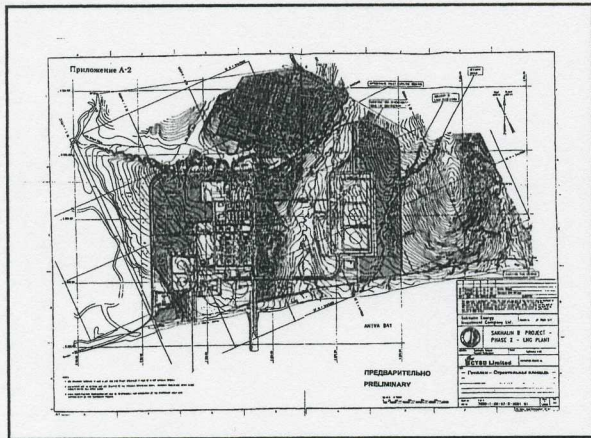
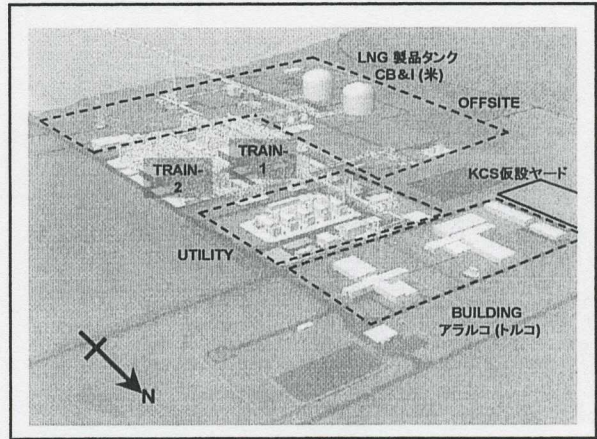
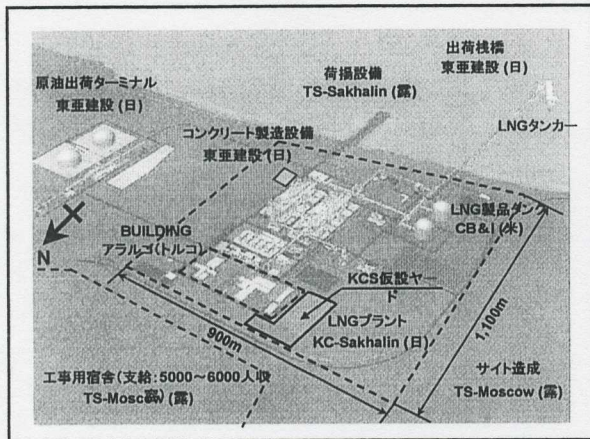
- ▼2002年2月 設立
- ▼建設協会28社と(株)三和重機が出資  
《資本金3,500万円》
- ▼「ワッコル」に対する建設機械の提供[割賦販売]
- ▼サハリンでの建設機械の販売
- ▼H15年の売上げ 1億7,500万円

## サハリンプロジェクト



## サハリン2の動向

- ◆事業主体;「サハリンエナジー」  
ロイヤルダッチシェル(55%)・三井(25%)・三菱(20%)
- ◆投資額;1兆8千億円
- ◆99年、ファーストオイル出荷
- ◆03年、東京ガス・東京電力・九州電力等と07年からのLNGの販売契約を結ぶ
- ◆03年6月、プリゴドノエ天然ガス液化プラント建設発注→千代田化工建設グループが受注(3,000億円?)
- ◆03年8月より、建設(造成)開始

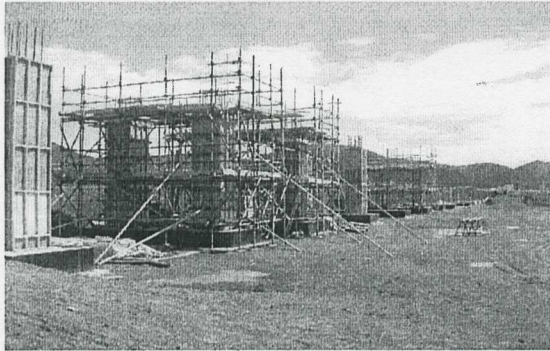


## ワッコル プラント建設参入

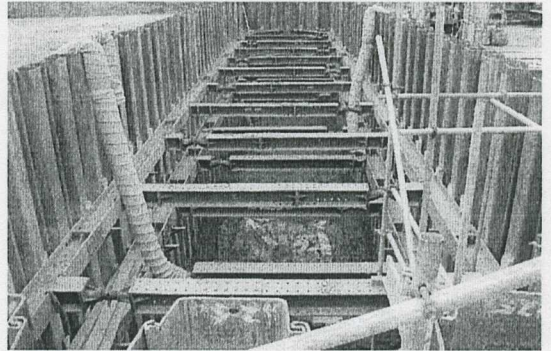
- 03年6月、1次下請けの鹿島建設と打合せ開始
- 03年12月、協定書締結
- 04年4月、稚内建設協会会員企業3社より、3名の土木技術者をアドバイザーとしてサハリンに派遣  
《04年4月末~12月初旬》約7ヶ月間
- 05年、東亜建設とも契約締結
- 05年4月、会員企業5社より、5名の技術者を派遣



04年 ワッコール施工[パイプラック基礎]



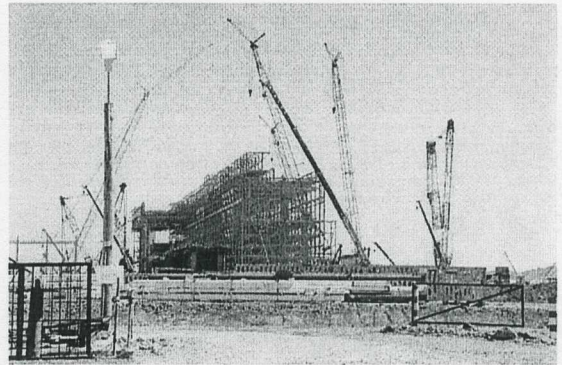
04年 ワッコール施工[ファイアーウォーターポンド]



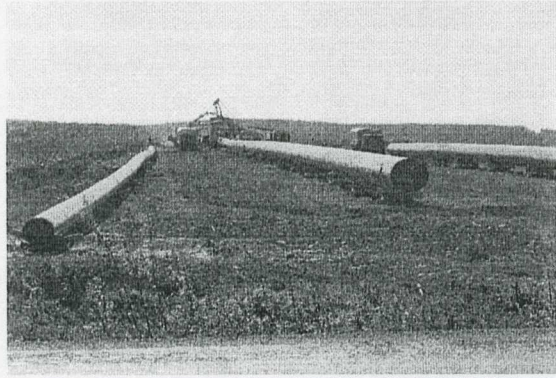
04年 キャンプ(5,000~6,000人収容)



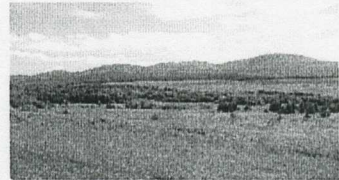
05年6月 液化プラント 状況



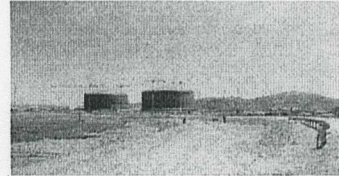
05年6月 パイプライン 敷設状況



03年8月



05年6月

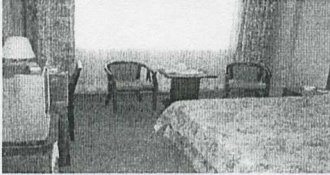


プリゴンドノエ地区 比較

ガガーリンホテル



室内の様子



## 今後の課題

- ◆職員の派遣《コミュニケーション、生活環境》
- ◆稚内港の有効利用《物・人》⇒ 活性化！！
- ◆サハリンプロジェクトの今後の動向  
S-1、2は07年に一段落、S-5は？

サハリン州の発展は？モスクワとのぶん取り合戦！？

## 稚内港第一副港地区 再開発計画の実現に向けて



平成16年12月  
株式会社 副港開発

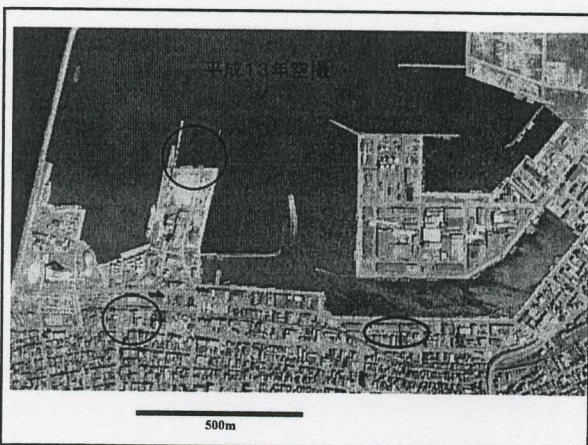
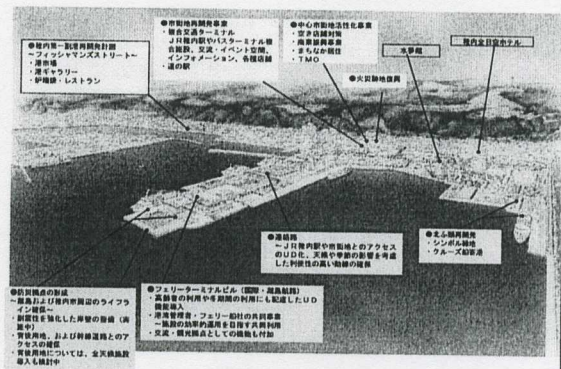
昭和50年代の第一副港の繁栄風景

### 第一副港地区再開発構想の経緯

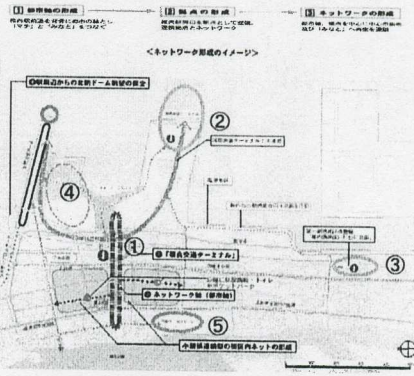
- 1998年 2月 市民有志によるボストン（ウォーターフロント）視察
- 1998年 10月 有志による構想図策定
- 2000年 2月 わっかない産業クラスター研究会設立
- 2000年 3月 稚内市、観光協会との懇談会
- 2000年 5月 有志による構想案策定・・・I LOVE WAKKANAI
- 2000年 10月 産クラ欧州視察（ベネチア、ミラノ、コペンハーゲン）
- 2001年 3月 第一副港地区の可能性調査補助申請に関する経産省ヒアリング、採択
- 2001年 7月 稚内市、産クラ合同にて七尾、氷見視察
- 2001年 10月 第一副港地区再開発に関するパネルディスカッション実施
- 2001年 12月 産クラから独立したプロジェクト立ち上げ（18名参加）
- 2002年 3月 経産省補助による可能性調査の概要を横田市市長に報告

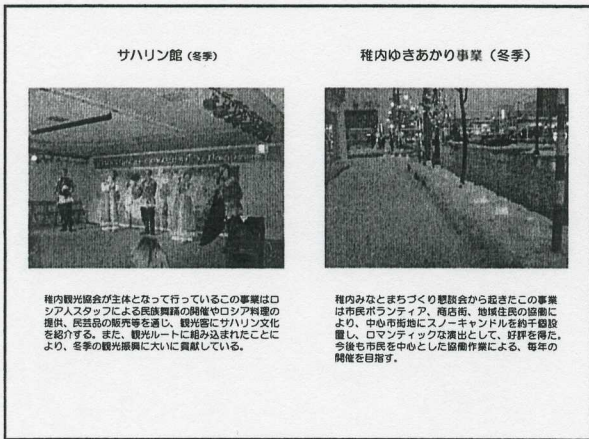
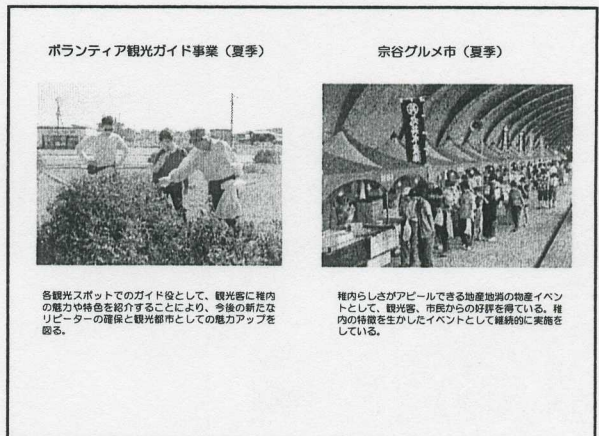
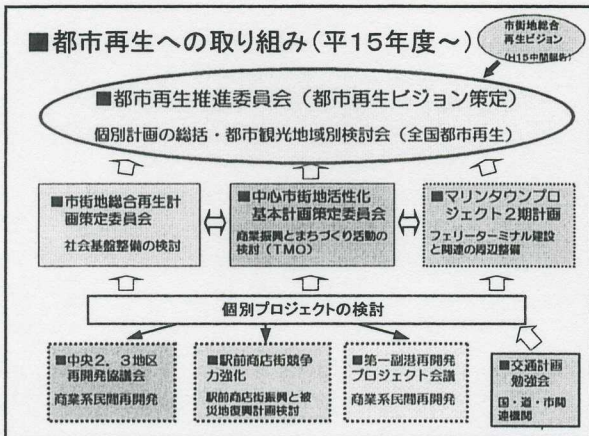
- 2002年 4月 地権者へ構想説明
- 2002年 7月 稚内市による市街地総合再生ビジョン策定開始
- 2002年 9月 負担金を募りプロジェクト立ち上げ（8法人3個人）
- 2003年 2月 プロジェクトとして「稚内第一副港地区再開発基本構想作成委託業務」（稚内市補助）を発注
- 2003年 2月 地権者の再開発計画策定に関わる確認書を作成
- 2003年 3月 開発局、内閣官房都市再生本部へ計画説明
- 2003年 4月 稚内市市街地総合再生計画策定開始
- 2003年 4月 稚内市により再開発地区の地籍、地質調査発注
- 2003年 5月 稚内市と平成16年度基本計画に対する協議を開始
- 2003年 6月 副港開発設立
- 2004年 7月 補償調査開始
- 2004年 8月 基本設計業務発注
- 2004年 12月 補償交渉開始、第一次出店者募集開始

### ■都市再生ビジョン全体像～まちとみなの連携を指して～ 目標年次:H17～22



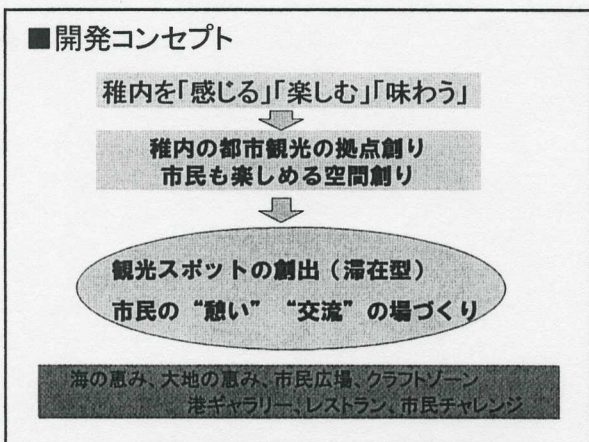
### ■市街地の整備方針



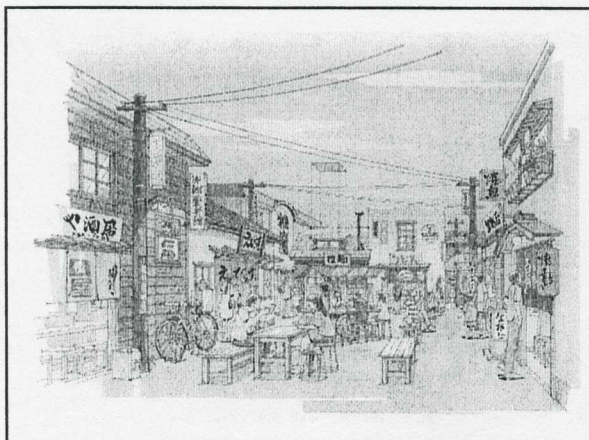
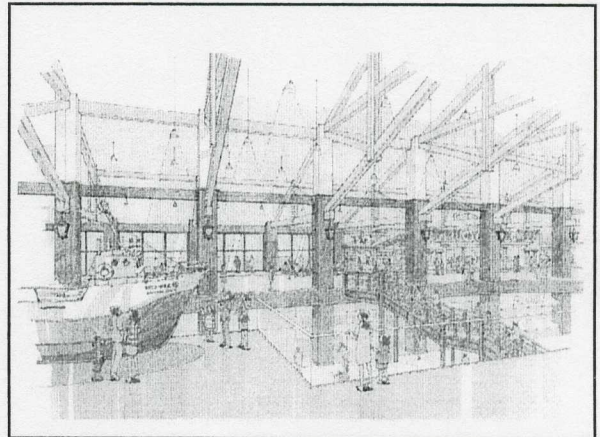
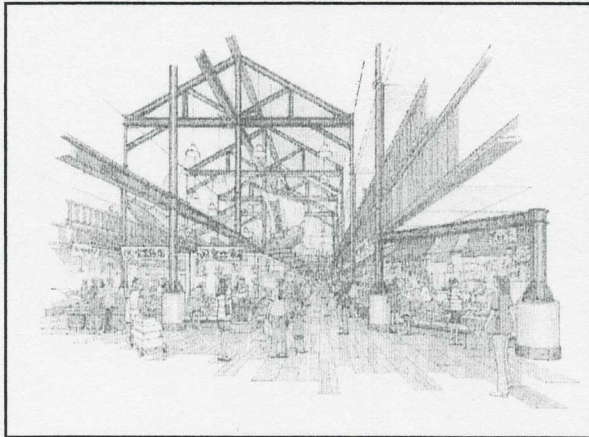
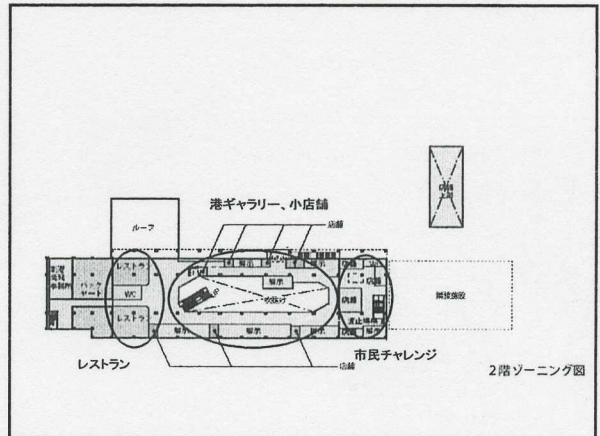
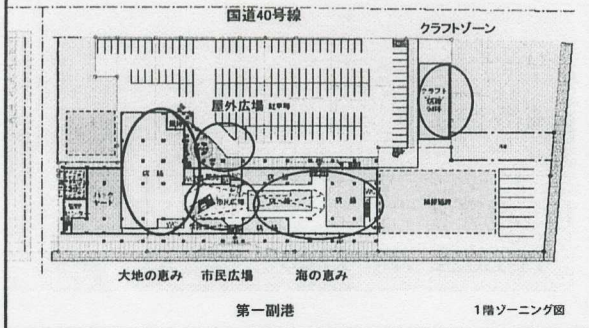


**第一副港地区 開発趣旨**

水産の街、稚内の礎をつくり、なお現在も経済の源である「港」「水産」「観光」をキーワードとしながら、稚内の中心市街地の賑わいの場であった第一副港地区に昔の賑わいを取り戻すべく、新たな観光拠点を形成し、観光客や市民が交流し、憩える場を提供することにより、地域産業の活性化を図る。



現在の施設整備構想



今後の予定

- 2005年 4月 市有丸北市場取り壊し
- 2005年 5月 第二次出店者募集
- 2005年 6月 丸北市場跡地に稚内丸善 商業施設建設
- 2006年 1月 稚内丸善移転、取り壊し
- 2006年 5月 副港開発商業施設建設
- 2007年 4月 グランドオープン



【会社概要】

- 会社所在地 稚内市中央5丁目
- 会社名 株式会社 副港開発（再開発事業主体）
- 設立年月日 平成16年6月30日
- 資本金 3億4千万円
- 主な出資者と出資比率
  - 稚内市 7,500万（22%）
  - 地元建設関連 22,000万（65%）
  - 地元金融関連 4,000万（12%）
  - その他 500万（1%）

■会社役員構成

- 代表取締役会長 横田耕一
- 代表取締役社長 中田伸也
- 取締役 藤田幸洋
- 石塚英資
- 坂本 敦
- 工藤 広
- 監査役 井須孝誠

【施設概要】

- 施設名称 (仮称) 稚内港市場
- 施設愛称 のちに市民公募
- 所在地 稚内市港1丁目
- 開設年月日 平成19年4月 オープン予定
- 総事業費 約15億円（優良建築物等整備事業）
- 施設規模 一部3階建
- 開発区域面積 約12,000㎡
- 建物延床面積 約7,000㎡
- 駐車場、空地等 約8,000㎡

平成19年4月オープン予定

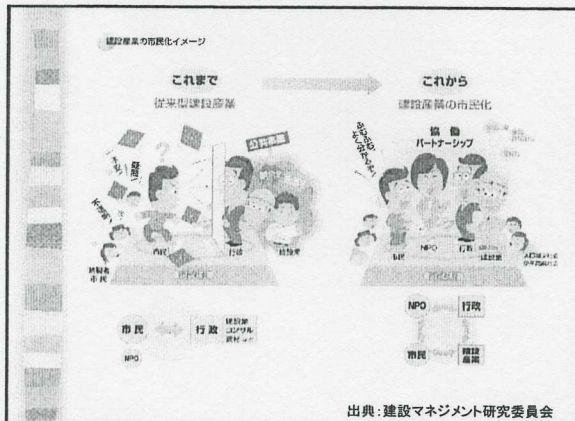
稚内第一副港地区再開発施設 第1次出店者募集

屋外・・・駐車場、屋外広場、クラフトゾーン（手工芸品等）

- 1階・・・物販（鮮魚、水産加工品、農産品、青果、みやげ物、その他）  
屋内広場、情報発信スペース、飲食（実演販売、小スペース）
- 2階・・・レストラン（地元食材、その他）、港ギャラリー、飲食（店舗）  
物販（小スペース）、事務所棟
- 3階・・・事務所棟、機械設備室

稚内市、宗谷管内在住の皆様を優先します  
お問い合わせ、お申し込みは下記までご連絡ください

副港開発 TEL 090-5071-7733 FAX 0162-29-0831  
稚内市都市再生室 TEL 0162-23-6161（内線562）



## 未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会



### (目的)

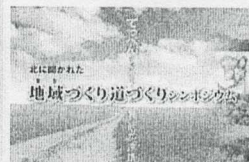
- 稚内市から北海道の中心都市札幌市、道北の中心都市旭川市までの現状の交通アクセスを踏まえて、地域において産業・流通・医療などの分野に道路ネットワークがどのような役割を担っているかについて広く議論を展開し、各行政機関への提言活動などを通じて地域発展・住民生活向上に寄与する市民主導のまちづくりの実現と当地域の発展に寄与することを目的とする。

## 宗谷路の会活動報告

- 例会、勉強会
- 他団体との懇談  
宗谷建設青年会、稚内観光協会青年部、稚内市立病院、宗谷管内営農部長
- シンポジウムの共催(10/23)  
(国土交通省谷口道路局長)
- 豊富バイパス開通イベントの共催(11/6~)



10月23日稚内北星学園大学



国土交通省谷口道路局長



豊富牛乳・ホタテ・宗谷黒牛ハンバーグの配布

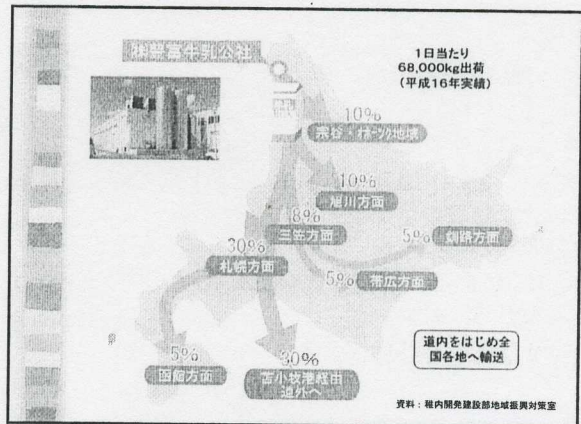
## 水産加工から見た今の道路



- 原魚を道内各地から仕入れ、稚内へ来るのが午後2時過ぎで加工は翌日から
- 加工品の鮮度を保って道内外の市場へ送り出しても、二日後では...
- 安全で安心な加工品でも新鮮でない
- 高速道路網が整備されると
- 原魚が午後一で入荷、加工はその日の内に
- 安全で安心な加工品が新鮮の内に翌日の食卓へ

## 農業・酪農から見た今の道路

- 飼料や肥料を使うのにも輸送コスト
- 製品を出荷するのにも輸送コスト
- 安全で安心な食材でも輸送コストで高くなる 付加価値をつけなければ売れない
- 高速道路網が整備されると
- 輸送コストの削減と輸送時間の短縮
- 安全で安心な加工品が新鮮の内に食卓へ



## 観光から見た今の道路

- 稚内空港から入らない道外のお客さんは、千歳や旭川からバスでカーブの多い道を長時間移動
- 道内のお客さんは、車で観光地を回る
- 「遠い」イメージ、「二泊三日」移動に2日
- 高速道路網が整備されると
- 「近い」イメージ、「一泊二日」移動が半日づつ



## 小売・製造から見た今の道路

- コンビニの進出できない理由に輸送時間
- 新聞の一面が札幌と稚内では違うのも輸送時間
- 原材料が高いので製造されるものも高い
- 高速道路網が整備されると
- 輸送コストの削減と輸送時間の短縮
- 新鮮な物や情報が都市部と同じ



## 今の道の現状(市民感覚)

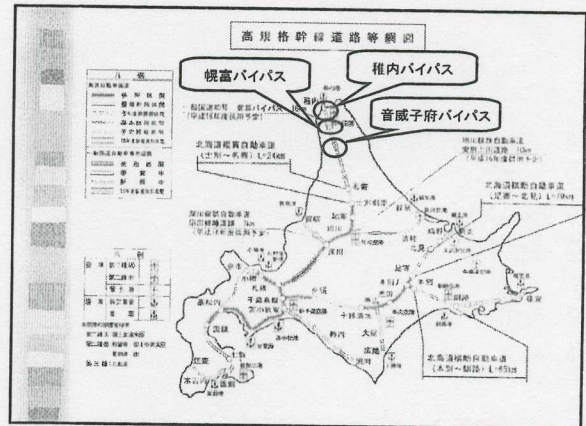
- 国道、県道(道道)、市町村道、農道区別なく利用。管理者が誰かも分からない。
- 高速道路(道路公団:有料)と高規格道路(バイパス:無料)の違いも分からない
- 道路はあって当たり前、お役所まかせ。社会資本整備はお役所が行うもの。
- 高速道路網整備は不要。現道の拡幅で足りるのではないか。(公安不許可)
- 警察が居なければ、80km+ αで走行。

## 今の道の現状(市民感覚)

- 現在の物流を支えているのは、**法律違反行為**
- 設計速度60kmを80km以上で走行するのは**自殺行為**
- 子どもや孫の世代もこのままでいいの？

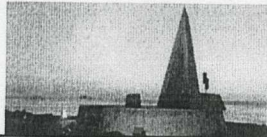
## 今後の活動計画

- 稚内バイパスの早期実現
- 幌豊バイパスの早期完成
- 音威子府バイパスの早期実現
- 宗谷丘陵の北海道遺産登録に伴う道路整備の要望
- 宗谷岬観光地下道設置の要望
- シーニック・バイウェイの研究



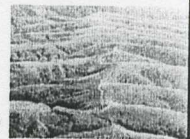
## 宗谷岬 最北端の碑

- 最北端の碑越しにサハリンの島影が正面に見える
- 要望
- 地下通路(観光客の横断)
- パーキングの拡張



## 宗谷丘陵と風車郡

- 宗谷丘陵(北海道遺産)と放牧された牛、風車郡(57基)。利尻の島影が遠望できる
- 要望
- 道路線形の変更
- 道路幅の拡張
- 通年開通(現;冬期間閉鎖)
- 展望台
- 駐車帯



## 宗谷路シーニック・バイ・ウェイ

- 広域連携
- 稚内市・豊富町・猿払村・利尻富士町・利尻町・礼文町
- 海路も
- キーワード
- 利尻富士・サロベツ・高山植物・サハリン・宗谷丘陵・最北端の碑・北防ドーム・花・放牧場・温泉

